

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：金谷中央自治会

開催場所：金谷地区社協事務所

開催日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）19 時 00 分～21 時 05 分

参加者：自治会側【地域住民の方 39 人】

市側【染谷市長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長、駒形戦略推進課係長、清水金谷南地域総合課係長】

内 容

#### ① 石上自治会長あいさつ

- ・市長は皆さんと膝を交えてお話をしたいということで市内全自治会を回っている。
- ・事前に要望という形で皆さんからの意見を募った。その回答をいただくとともに、市長との意見交換はめったにない機会であるので、要望や意見を出していただければと思う。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということで実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでまわっている。

##### ■金谷中央自治会の人口、世帯について

- ・金谷中央自治会の 10 月 31 日現在の世帯数は 363 世帯、人口は 922 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 376 人、高齢化率は 40.8%となっている。市の平均が 29.5%。1 割くらい高齢化が進んでいる。15 歳以下の人口は 68 人で人口に占める割合は 7.4%となっている。市の平均は 13.7%なので、子どもの数が少ない。昔からお住まいの方が多く、世代交代があまり進んでいない、若い人が戻ってきてきていない地域だといえる。

**■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて**

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。何も対策をしないですと 2060 年には島田市の人口は 6 万人程度になってしまうという国の推計が出ている。地方自治体では、まち・ひと・しごと地方創生総合戦略を策定して、都会から若い人を呼び戻して、子育て環境を整備するなどの施策に取り組んでいる。しかし、日本全体の人口のパイは、これから 30 年程度は増えることはない。
- ・そういう時代にあって、企業誘致による雇用の創出や、子育て施策の充実を図ることによって人口増対策をしつつ、人口減少に対応した行政経営をしていく必要があることも事実である。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計（老後についても）ができた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった（高度成長期）と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人が増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。
- ・一方で、あと 30 年後くらいには、働いて税金を払ってくれる人の数が減っていく。（人口の約半数になると推計されている。）
- ・かつて、税収増が見込めた時代には、市が借金しても、次の世代の人たちが返していけるという、世代間の分配の中で都市経営が行われてきた。
- ・国も国民一人当たりの借金が 826 万円ということが報道されている中、若い人も島田に住んでやりたいこと（自分たちの政策を形にすること）があると思う。自分たちの時代のことは自分たちで何とかしようという考え方を持たないと、持続可能な都市経営はできない。これは一般論として御理解いただけたらと思う。
- ・市民病院も一番いい施設、最新の医療機器を整備した病院ができる予定。小中学校の連携、ICT 教育、英語教育などの充実も必要であると考えている。
- ・10 年先、20 年先を見据えた都市経営が行政には求められている。島田市は都市経営をする会社であり、島田市を持続可能な都市とするためには今何をしたら良いかを考えるのが行政の役割であると考えている。暮らすなら島田でという気持ちを持ってもらえるような施策を講じていかなければならない。
- ・市民の安心・安全を確保することが行政の役割だと考える中で防災にも力を入れており、広域避難計画を県内でもいち早く策定した。また、ダヴィンチ Xi という医療機器も導入した。県内で 4 例目の導入となる。3 億 5,000 万円ほどする。前立腺がんなどの手術において、出血や痛みが少なく、子宮頸がんや胃がんなどの保険適用も期待されている。医師の確保にもこうした機器の充実は必要である。

**■市民病院の建設、医療制度改革等について**

- ・先日、病院のことが新聞に載ったが、建設する場所は、野田の病院の敷地内。東側の駐車場に建設する予定。地上 7 階建て。
- ・ドクターヘリを屋上に整備し、救急棟、健診センターの建物は残していく。救急棟は一階部分を透析センターとしたい。平成 32 年度の末までには開院し

たい。

- ・病院に入る県道の右折レーンについても整備していく計画。病床数は445床、診療科目はほぼ同じ。
- ・今の病床数よりも病床数が減る。これは、療養病床を無くすことによるが、病院を丸ごと機能別で仕分けていくという国の方針の下、急性期病院として整備していくためによるものである。
- ・事業費は基本構想で出された247億円を上回らないようにしていく。
- ・液状化の可能性はない。過去35ヶ所のボーリング調査を実施し、今年度は6～8箇所調査している。粘土質であるが岩盤までの距離はある（深いところで約30m）。土壌改良と岩盤まで杭を打つことで建設には支障がないとの設計業者の話を受けている。
- ・2025年（団塊の世代が全て後期高齢者となる年）を目途に、施設から在宅へという流れを考えている。国は医療費が毎年1兆円も伸びている状況において、入院日数（14日から9日程度）を減らして医療費の削減を図ろうとしている。
- ・オプジーボというがんの薬も3,500万円が半額になるのではという報道もされた。C型肝炎の薬は一錠8万円で3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かる。でも、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。高額医療が増えれば国保税も上げざるを得ない。
- ・この医療制度改革をにらんで、市では24時間訪問看護ステーションを今年度から開始している。市内の開業医の高齢化に伴い、往診も厳しい状況にある中で、医師の指示書に基づきナースが医療行為をし、入院が必要であれば市民病院へ入院してもらう。
- ・地域包括ケアシステム（医療、介護、介護予防、生活の支援、住まい）をトータルで支援するシステムのことであるが、このような取り組みを進めている。
- ・市民病院は昔から京大系といわれてきた。京都大学からは面倒を見れないと言われていた。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらう有力なところとして、浜松医科大学をしっかり抑えていきたいと思っている。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。10月にも麻酔科の医師がきてくれている。来年4月には准教授クラスのお医者さんが来る予定。

#### ■賑わい交流拠点の整備について

- ・合併して10年、何も金谷にいいことはないといわれてきたが、市内でも金谷地域はこれから一番変わる地域であると考えている。集中的に投資を計画している。
- ・NEXCO中日本、大井川鐵道、JA大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷IC周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ1,400㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。（今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。）

- ・基本計画の内容については、11月から12月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの支店の交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産物をここに集めて売る。
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。
- ・首都圏からの観光バスの往復500kmの位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。
- ・交通網の拠点となる場所がインターチェンジ周辺だと考えている。
- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。

#### ■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。(アンケート調査などの結果では20社ほどの引き合いもある。)
- ・牛尾山と一豊堤のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。

#### ■金中跡地の開発についてなど

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から8年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費(補助金)をもらって整備をしてきている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング(ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想(風の郷)として指定されている地域ということも勘案して提案すること。)を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画(約束=底地は市が用意してウワ物は県が建てる)が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたくて考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

**■お茶の郷について**

- ・お茶の郷は今年の6月1日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し、全国的にも例を見ないお茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていきたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の葉能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。

**■牧之原公園の整備について**

- ・工事期間は11月1日から2月28日までとなっている。（公園内に工事の看板が掲示されている。）
  - ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を含めた今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
  - ・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景100選ということに加え、お茶の郷（6月から県へ移管）、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。
  - ・富士見茶屋は手を入れるので地元の方に運営をしていただきたいと考えている。
- ・このように、金谷地域は確実に島田の稼ぐ力になっていく地域である。企業誘致によって雇用も生まれる。企業進出には、地元で雇用（働いてくれる人がいるか）が賄えるかということが進出の決め手と言われている。金谷地域には働いていただける人はいると企業側は考えている。また、大井川の良質で豊富な伏流水がある。これは企業誘致するためには大きな武器である。

**■金谷庁舎について**

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを知っているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を2箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転した。（11月7日）。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。（年明け）耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能（整備）については内部で検討しているが、一つ方針が決まっていることは、

南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。議会には、健康・福祉の機能という説明をしているが、市民の皆様の声も聞きながら検討を重ねていきたい。

- ・今の支所の施設は、地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。
- ・金谷庁舎に代わる施設をみんくろや夢づくり会館で補っていくという御意見を他の自治会の車座トークの中で御提案いただいた。

#### ■今後の公共施設のあり方について

- ・公共施設の維持管理に今後 40 年間 2,515 億円かかる。投資できる金額との整合性を図るためには、今後 40 年間に公共施設の約 21%を削減しなければならないというデータが出ている。公共施設は 276 施設 663 棟の建物がある。削減することは市民の皆様も（総論では）ご理解いただけると思うが、実際自分の地域から公共施設がなくなることは、その地域の方には困るという話になってくる。
- ・こうしたことから、施設に付加価値の機能を高めていきたいと考えている。（総量は減らしつつ、残した施設に付加価値をつけていく。）
- ・現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえようと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。
- ・これに対して、同じものをつくるとなると、70～80 億円、100 億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。病院に目途が立った段階で、市民会館と市役所（築 53 年）、おおるり（築 34 年）、建設検討委員会を立ち上げて（病院の設計に目途がたった段階で立ち上げていく。）市民病院の詳細設計は、今年度内にお示しできると思っている。
- ・市内に 25 ある小中学校のほとんどが昭和 40 年～50 年代に建設されたため、老朽化も同じ時期となる。教育環境の充実といった点でもある程度の規模が必要であると感じている。

#### ■地域の抱える課題等について

- ・なんでも行政にお任せは難しい。地域の課題を地域で解決していただくために取り組みが市内でも見受けられる。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500 円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ 500 円でも収入になる。（道悦島の事例）
- ・蛍光灯の取替えや重いものを持たないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組み。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。（湯日の事例）

- ・コミバスが地域に走っていない地域においては、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・それぞれの地域がそれぞれの地域の課題を解決するための取り組みがされている。こうした地域づくりができるかということがこれからにかかっていると思っている。行政も一緒にやるが行政にあれやってくれこれやってくれとなってしまうと順番が来るまでに時間がかかる。地域の方と一緒に動けば、それだけ早く課題も解決できると考えている。
- ・市民が住みなれたところで安心して住み続けられるようにしたい。それが行政の役割だと思っている。
- ・島田市は県内で一番離婚率が低いまち。持ち家率が多い（県内2位）。軽犯罪率が少ないまち。住み良いまちだと考えている。
- ・地産地消で安心した食物がある、大井川の豊かな伏流水もある。自分の地域を愛し、その地域のために何かしら行動したい人が多いまちでもある。
- ・島田市は働きやすく住み良いまちである。若い人が帰ってきてくれるまちにしたい。そのための教育、そのために支援を重ねていくことだと思っている。
- ・地域づくりにも力を入れていきたいと思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■朝の通学について</p> <p>朝、小学生の通学時、ヤオハン（現 ザ・ビック）の南道路が通勤の車と重なり事故が起きる危険がある。7:00～8:00を一方通行にするなど、安全対策を立ててもらいたい。</p>	<p>●時間規制の導入については県警察本部が決定する事項となることから、市及び地域（地元）の同意が大前提となっている。</p> <p>平成28年度の通学路合同点検において、金谷小学校よりご指摘の道路の歩道が狭いとのもので、土木管理課、学校教育課、生活安心課、島田警察署、金谷小学校の担当において現地での対策案を検討し、特に狭いと要望のあった清水橋前後のグリーンベルト拡幅を11月上旬に実施した。変更出来ないのであれば逆に通行車両を通りにくくすることで、市道へ進入してくる車両を制限することを安全対策のひとつとして考えている。</p> <p>島田警察署では、今回提案のように一方通行にすることでより通行車両のスピードが出ることへの影響を危惧している。</p>
2	<p>■下水溝の清掃改善について</p> <p>県道の下水溝清掃時、コンクリート蓋（厚さ130mm）が町内の男性が高齢化のため、持ち上げられない状況である。そのため、下水溝の中の清掃ができない。環境美化の一環として市全体で清掃を行っています</p>	<p>●急速な高齢化の進行により、今まで地域の皆様が行っていた様々な行事や草刈等の作業が難しくなってきたとのお声を伺うことが多くなってきているが、市においても全ての地域で対応を取ることは難しく、従来どおりそれぞれの地域に密着した施設の管理については、出来る限り皆様の手</p>

	<p>が、市として下水溝の清掃は今後どのようにするのが望ましいと考えているのか？蓋は開けなくても下水溝の清潔・衛生面は保たれるのか？開ける必要があれば、どのような方法があるのか？</p>	<p>で愛着を持って実施をしていただきたいとお願いをしているところ。なお、堆積量が多く人力での作業が困難な場所は、自治会を通じ要望書の提出をいただき、現地を確認したうえで対応させていただきたい。</p> <p>また、コンクリート蓋を持ち上げるための、蓋上機の貸し出しを土木管理課で行っているため、清掃作業時にご利用いただきたい。</p>
<p>3</p>	<p><b>■お出かけバスの利用について</b></p> <p>今年4月から、市営のお出かけバスの路線変更がされた。回覧板等で変更の周知はあったようだが、私たち高齢者にとっては通らなくなって初めて現実を知るものがほとんどである。梯子をいきなり外されたような思いがある。今は、バス停まで行くにはかなり歩かなければならない。どうか、旧路線の復活をお願いしたい。例えば、月、水、金は今の路線。火、木、土は旧の路線ということが実現すれば、計画的に外出できるようになり、大変ありがたい。是非、高齢者の声を聞き届けてほしい。</p>	<p>●コミュニティバスの経費は年2億4,000万円となっている。4月から、将来にわたって持続可能な路線を維持していくため、路線および時刻の変更を行った。金谷地区においては、利用者の少なかった一部の路線は廃止したが、金谷駅を起終点とした路線にしたことで、2路線は距離の延長を行い、1路線は新設した。全体的に見れば、バス停の数は昨年よりも増加し、昨年より充実した路線になったと思っているので、最寄りのバス停まで歩くことについては、ご理解願いたい。また、曜日によって旧路線と新路線を運行させることについては、現在の時刻、経路で毎日利用されている方々に大きな影響を及ぼすので、難しいと考えている。今後、大幅な路線変更については考えていないが、時刻の変更や軽微な路線変更などを行いながら、更なる利便性の向上を目指していくので、以上の点をご理解いただき、是非利用していただくようお願いしたい。路線の変更等は、陸運局への申請、許可が必要なため、すぐに対応できないこともご理解いただきたい。</p>
<p>4</p>	<p><b>■市の土地の雑草について</b></p> <p>中町と清水町の境に市有地があり、常に雑草が茂っている。今までは近くの人が刈り取っていたが、今年は、市にお願いして8月上旬に刈ってもらった。あれから2ヶ月以上たち、また元のように雑草が茂っている。できれば、コンクリートかアスファルトにしてもらいたい。</p>	<p>●市有地の除草作業は年2回実施しており、当該箇所についても本年度2回目の作業を11月15日（火）除草作業実施済。</p> <p>除草作業完了後、ご指摘のあった草押さえ措置を講じるようにする。</p>
<p>5</p>	<p><b>■清水川について</b></p> <p>清水川は中町と扇町の境に流れる川。平成26年、平成27年の台風による増水の時、あと石垣1段で溢れるところまでになった。この事実を踏まえ、今後、温暖化に伴う気象（気候）変動による豪雨や台風の規模の拡大</p>	<p>●清水川、大代川につきましては、県の管理河川となる。</p> <p>土砂浚渫については、河道内の堆積土砂の状況を考慮し優先度の高い箇所から実施し、大代川を含む市内の県管理河川について限られた予算の中で危険度の高いところから実施していきたいと聞いている。</p>



	<p>大が予期される中で、将来的な行政の管理についてお聞かせいただきたい。上流には沢川、早川、新川と3つの川があり、合流して清水川になっている。そしてこの清水川は大代川に注いでいる。大代川が満水になれば排水ができないので、そこが一番心配するところ。大代川の土砂の浚渫を以前行われたが、今現在、ところどころ土砂が堆積している。今後、土砂の浚渫の計画はあるか。</p>	<p>市としても河川の維持、修繕についてお願いをしていくが、地元自治会からも要望書の提出をお願いしたい。</p>
<p>6</p>	<p><b>■牧之原公園の整備について</b>          牧之原公園から見る景色は、島田市はもとより、富士山・伊豆半島が見渡せる。また、夜景はすばらしいものがある。しかし、現在は、木の枝葉が茂り、景観を損ねている。トイレも掃除されていないので、使うこともできない。せっかくの島田市の良い観光資源が台無し。早急に改善されたい。お茶の郷、諏訪原城、旧金中跡地と併せて、検討してほしい。</p>	<p>●牧之原公園については、以前にもトイレの臭気に関する意見をいただいたり、公園開設後30年余り経過し施設の老朽化が著しく、また障がい者の利用が困難なことから本年度バリアフリーの視点も取り入れた施設の改修工事を行っている。今回の工事で牧之原公園から市街地はもとより遠く富士山を一望できるよう景観にも配慮し現在繁茂している樹木については剪定や間引きを行うので、来年3月にはリニューアルされた公園とした利用できる予定なので、今までと同様に地域で利用していただければと思う。          富士見茶屋は手を入れるので地元の方に運営（活用）をしていただきたいと考えている。地元の皆さんが接待できるような富士見茶屋として活用いただきたい。</p>
<p>7</p>	<p><b>■空き家対策について</b>          どこの地区でも問題になっている空き家は、金谷中町でも2軒ある。空き家を所有している方の事情もあるが、職員が所有者宅に行き、相談に応じ助成対策をたてていただきたい。いつまでも空き家にしておくと防犯上問題が生じるので、早急に解決されたい。          宮崎町にも空き家が多くある。空き家の多くは、年数がかなり経っており、防災面でも危険な箇所と言える。防犯上でも問題はないのか。国が税制を変えない限り、放置は避けられないと思うが、島田市の取り組みについてお話を頂きたい。</p>	<p>●平成27年度から過疎地域における人口増対策の一環として、川根地区における空き家バンク事業を実施している。          その他の地域については、今年の6月から、県内外からの移住・定住者支援の一環として、地域おこし協力隊が移住者目線で作成したポータルサイト「住んでごしまだ」の中で、民間の不動産事業者と連携した「市内全域の不動産バンク事業」を開設し、市民等の皆様にも空き家情報提供し、利活用を促進している。空き家は現在全国で2割となっているが10年後には3割になると推計されている。放棄宅地と合わせて10年後の大きな課題だと国も認識している。空き家対策特別措置法が施行され、危険な空き家は更地にするよう、行政が所有者に勧告できるようになった。危険な空き家（特定空家）が市内に何軒あるか今年度調査している。特定空き家は、</p>

		<p>1年以上放置した場合、今の固定資産税の6倍の税金をかけるという法律の改正も行われている。(住宅用地の場合)</p> <p>個人の財産であるということが課題。行政が強制的に撤去することは可能であり、その費用はその持ち主等に請求することになるが、その代金を支払わないという課題が全国の中でも出始めている。</p> <p>今年度3自治会の協力を得て先行調査を実施している。来年度には市内の全自治会に実態調査をお願いし、空き家等対策特別措置法に基づき空き家の情報等を把握した上で、所有者等に対して定期的に適正な管理を指導していきたいと考えている。なお、実態調査後についても、相談をいただければ個別に対応していくので、建築住宅課までご連絡いただきたいと思う。相続については、全国的に団塊の世代の持ち家率は8割、団塊世代のジュニアは6割となっている。資産価値等から相続しなくなると法定相続人が多くなり、相続手続きが煩雑になる。民間の土地開発などが相続問題で実施できないという弊害も出ている。</p>
8	<p>■金谷宮崎町の早川に滞留する土砂について</p> <p>金谷宮崎町の早川には土砂が良く溜まるので5～6年に1回、定期的に除去して欲しい。</p>	<p>●市内河川の土砂浚渫については、堆積土砂の状況を考慮し優先度の高い場所から実施している。自治会を通じ要望書の提出をいただき、現地を確認したうえで対応させていただく。</p>
9	<p>■防災について</p> <p>以前、市長が市長になる2ヶ月前に「みんくる」で静岡県富士の国防災士の立場で防災講座を開いたことがあり、その時、大地震が発生したら金谷二軒家周辺の山と大代ダムが崩壊すると発言された。今現在もその持論は変わらないのか。ならば、その対策は計画されているのかお聞かせいただきたい。</p>	<p>●大井川の上流に15のダムがある。震災直後は山の崩落によって土石流となって中下流域に影響があるのではないかとということが流域住民の方々が不安に思われていた。そういう不安に対して、国も県も想定をしておらず、計画も持ち合わせていないということ申し上げた。二軒家地区の地すべり防止区域指定地については平成5年度から平成12年度までの間において、水抜ボーリング工事や水路工・暗渠工等の対策工事を施工し、概成しており、地盤や地下水位の変移はない。現在、更なる対策工事の計画は持っていない。平成25年度に、県により全ての防災ダムにおいて耐震照査が行われた。大代川農地防災ダムにおいても実施され、レベル1地震動(中規模地震 震度5強程度)に対する設計がされている施設であることが分かっている。</p>

		<p>レベル2地震動（大規模地震 震度6以上）に対する照査については、下流域において、人命・財産・ライフラインへ与える影響が少ないとの見解により未実施の状況。また、地震時においてダム本体に亀裂が入る可能性はあるが、今現在、ダムに貯水をしていない状況であるため、水圧を受け決壊につながる可能性はかなり低いと思われる。ただ、ダム上流部の法面については、老朽化が進み脆い状態となっており、崩壊が起こった際にはダム放流口をふさぐ危険があるため、こちらについては、平成30年度より県営事業で行う観測施設更新に併せて法面工事を実施していく計画している。</p>
<p>10</p>	<p>■高齢化による閉じこもりをなくすために</p> <p>高齢化社会になり宮崎町も75歳以上の高齢者の割合が、市の15%に比べ24%と高くなってきている。今後ますます高齢化する社会に対して先月「いきいきだより島田」の会報の中で増田会長様が面倒な人とのかわりを好まず、家の中に閉じこもり個人的な行動に終始する風潮を懸念しておられましたが、地域社会から孤立しないで運動や趣味を通じて社会参加してもらうにはどう向き合っていけばよいのか？</p> <p>社会福祉協議会や民生委員の方々もいろいろとやられていると思うが、市としての取り組みについて今後予定している具体的な案あればお聞かせ頂けたらと思う。</p>	<p>●高齢者が元気で長生きしてもらいたいことはみんなの願いである。</p> <p>夢づくり会館に最新型の高齢者用のトレーニングマシンを整備した。</p> <p>シニアサポーター養成講座によって高齢者の皆様に好評で、介護予防などの効果もあると考えている。ジム機器のトレーニングは男性が多いことが特徴。是非お試しいただきたい。高齢者の数がさらに増加するこれからの社会では、人と人が顔と顔を合わせる機会を大切にしつつ、地域の中でお互いに誘い合い、声を掛け合うことが、介護予防や閉じこもり予防に効果を発揮すると考えている。これから、地域の中で行政任せだけではできないことがいっぱい増えていく。去年も、例えば熱中症がすごく心配で保健師の人たちもみんな回って高齢者を見たが、エアコンを使うように言っても、設定が暖房だったとか、設定が33度だったとか、あるいは、中にはエアコンのスイッチを入れたらテレビがついてしまうような人もいて、行政だけでやれることには限りがある。そうした中で、地域で見守る体制を作っていかなければならない。ぜひ自分の地域のために自分たちに何ができるのかというようなこと、そして行政と一緒に手を携えてやれることを考えていきたい。その対策のひとつとして市では、身近で気軽に利用できる通いの場である「居場所」の設置に対する補助金制度をスタートさせたところ。（補助金額は20万円）居場所は、公会堂などに近所の方々が集ま</p>

		<p>り、おしゃべりや趣味活動などで自由な時間を過ごすことができる場のことで、既に市内では、30か所以上の居場所が開設されている。</p> <p>豊かな人生を送るためにも、誰かのお役に立ちたいと思うことも大切であると考え、ボランティア情報を掲載した「シニアのためのボランティアガイド」を作成し、さまざまな場面で活用している。</p> <p>また市では、老人クラブ（いきいきクラブ）の取り組みも継続的に支援していく。各地域の老人クラブでは、単に運動や趣味活動、奉仕活動などを行うだけでなく、行事への参加をお互いに誘い合ったり、高齢者の家を訪問して話し相手になったりして、孤立や閉じこもりを予防する取り組みを行っている。だれもがいつまでも住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、是非、自治会や町内会などで住民同士の支え合い、地域での助け合いを積極的に進めていただくようお願いしたい。</p>
11	<p>■交通改善状況</p> <p>現在、夕方17:00以降で旧国道（現381号線）について、大井川の橋から扇町まで、島田方面行き（東進）が渋滞してしまう。</p> <p>大井川の橋を片側2車線にするなど、改善策はたっているか？</p>	<p>●道路管理者である静岡県からは、県道島田岡部線大井川橋の片側2車線化の計画はないと聞いている。一方、バイパスは4車線化に向け新大井川橋の橋脚部分の工事が始まっている。また、菊川インターについてもフルインター化の工事に着手している。御前崎港⇒菊川 IC⇒大代 IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるということで国への要望を積極的に行っている。4車線化に伴い、大代 IC のランプも大きくすることによって JA の移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながってきている。大井川橋周辺の道路交通状況については朝の通勤時間帯には下り線（西進）夕方の帰宅時間帯には上り線（東進）に渋滞が発生していることは認識しており、静岡県においても対策に苦慮しているところ。これまでの対策としては、平成15年に島田市・金谷町・島田警察署・島田土木事務所・島田商工会議所・金谷町商工会・島田市稲荷町、同河原町、金谷町東町代表者により「一般県道島田金谷線大井川橋周辺渋滞対策協議会」が設立され、渋滞対策について検討を重ね、大きくは次のふたつの対策を実施している。</p>

		<p>一つ目は、大井川左岸上流部に転回広場を設置して渋滞の主な要因であった右折車両をなくすという対策、二つ目は、大井川橋東・島田高校入口・稲荷町と交差点が連続し、信号待ちによる滞留が渋滞を助長しているという指摘から、青信号の時間延伸や連動化を図るなどの対策が行われた。（これにより朝の時間帯の東進方向の渋滞が緩和されている。）</p> <p>また、今後は国土交通省により実施されている国道1号島田金谷バイパスの4車線化により道路交通の流れが国道1号に移ることにより、県道の交通量が減少して渋滞が緩和されるのではないかと期待している。</p>
12	<p>■お茶の郷について 「お茶の郷」の今後の維持管理、運営方法はどのようにしていくのか？</p>	<p>●お茶の郷は、平成28年6月1日付けで静岡県へ移管された。</p> <p>現在、県は平成30年春のオープンを目指し、リニューアルの設計を進めています。リニューアルの概要として、外壁及びミュージアムショップに県産材を使用すること、中庭側に新しい動線を整備し、中庭に現代風庭園を設置すること、レストランをおしゃれなカフェレストランに改装することが検討されている。また、博物館の展示についても、世界と日本のお茶を分かりやすく学べる内容にするとのこと。今後は、県の施設として管理され、博物館は県の直営、商業館は民間事業者による運営を行うと聞いていますが、具体的な方法はまだ示されていない。市としては、地元にあるお茶の施設として、今後も運営協議に積極的に関わっていきたいと県へ要望している。</p>
13	<p>■防災について 清水川の堤防がコンクリートで補強されているが、一部は旧の状態になっており、今後、堤防補強の予定はあるか？</p>	<p>●清水川は県管理河川。平成28年3月に作成された「大井川水系大井川下流ブロック河川整備計画」の中で、「清水川については、清水川上流の内水被害の解消を目指して、島田市の準用河川整備・内水対策と連携しながら検討・調整を進め、必要に応じた河川改修を行う。」と示されている。</p> <p>県管理河川の整備促進については毎年要望活動を実施している。事業実施に向け、引き続き管理主体である静岡県への要望活動を行いたいと思う。</p> <p>地元の皆様からのご要望は大変効果的であるので、要望書などの資料の提出をお願いしたい。</p>

<p>14</p>	<p>■最終処分場の今後について</p> <p>10月1日のTVで最終処分場が地権者との合意ができていないため、土地を地権者に返却し平成28年度末に閉鎖をすることだが、市が推進している環境美化（側溝清掃活動や河川愛護活動）さらには家庭ごみの処理にどのような影響があるのか？</p> <p>市として、最終処分場の新規開設をどのように考えているのか？</p>	<p>●最終処分場については裁判によって、市の前面敗訴となった。和解が最善と考え、話し合いを続けてきたが、一部地権者の同意をいただけない状況であるため、平成28年度をもって使用終了となる見込である。新たな最終処分場については、2年前から市内の6か所の候補地を選定して検討を重ねたが適地はなかった。来年の4月からは、外の処分施設に出すことになった。焼津、藤枝もそうしている状況である。外の処分施設に出すことについては御理解をいただきたい。市内一斉美化活動（川ざらい）で発生する汚泥・土砂は市・内外の処分場で処分することになるが、処分手数料に関しては、当面は今までどおりとし、家庭瓦礫については、田代環境プラザで一時預かり、その後処分することを考えている。詳細は決定次第、周知させていただく予定。なお、新最終処分場の建設も視野に置いて検討していく。埋めたものが本当に放射能があったのかというと、埋めたものの測定を行ったが、市のゴミと同等またはそれ以下の数値であった。ゼオライト（放射線を遮断するシート）で覆っても地権者の同意をいただけなかった。</p>
<p>15</p>	<p>■タバコのポイ捨て</p> <p>タバコの吸殻を平気で捨てる人がある。車に乗っていながら捨てる人、歩きながら捨てる人を見かける。それも、時々、火のついた吸殻が道に落ちている場合もある。秋から冬にかけて木の葉と一緒に舞っている。火事になれば大変なことになる。他市町村でも実施しているので、早急にタバコ吸殻のポイ捨て条例を制定し、地域を火事から守ってほしい。</p>	<p>●ご指摘のごみのポイ捨て禁止条例については、平成7年度に「ごみのない美しいまちづくり条例」を制定し、美しいまちづくりを推進している。この条例の中で、第4条に市民等の責務として、「みだりに空き缶、空き瓶、たばこの吸殻、チューインガム等のごみを捨ててはならない。」と規定し、明確にたばこのポイ捨てを禁止している。しかし、たばこのポイ捨ては、市民の皆様一人ひとりのモラルとマナーに関わるものであり、条例だけでは解決できない課題であると考えている。今後は、まちの美観だけでなく、火災の発生等も懸念されることは、十分理解できるので、路上喫煙の禁止やポイ捨て等への罰則等について検討していくとともに、啓発活動にも努めていきたいと考えている。</p>
<p>16-1</p>	<p>■道路アクセスについて</p> <p>県道住吉金谷線について、JRの踏切を渡ったあとには非常に細くな</p>	<p>●具体的な計画はないが、そういう話があったということ、検討をしたということは話で聞いたことはある。突き当たった山はJRの所有で、土砂</p>

	<p>っている。静岡空港へのアクセスということで、二軒家からトンネルを掘っていく計画があったらしいが。</p>	<p>崩れの危険性があるためトンネルを掘ることは難しい。鎌塚に至るまで待避所を設けて対応している。やれる限りのことはやっている。</p>
16-2	<p>■車線を広げることは難しいということか。</p>	<p>●そういうふうには聞いている。</p>
17-1	<p>■清水川の土砂について 清水川の川底の土砂を取り除いて欲しい。 また、大代川までの400mの区間の土手について、水道管などの埋設物を敷設することができないようだが、生活している既得権として埋設を認めてほしいができないか。</p>	<p>●土砂浚渫については、河道内の堆積土砂の状況を考慮し優先度の高い箇所から実施し、大代川を含む市内の県管理河川について限られた予算の中で効率的に実施していきたいと聞いている。市としては河川の維持、修繕についてお願いをしていくが、地元自治会からも要望書の提出をお願いしたい。既得権益で何とかして欲しいということは難しい。 県のこうしたものの予算は15年くらい前の3分の1くらいしか付いていない。国も同じである。市がやりたくても継続の事業でさえ1年、2年遅れの事業がある。社会資本整備総合交付金が半分もつかないような状況の中で優先順位を付けて実施をしている。ただ、危険箇所であれば早急な対応が必要であり、専門家もそのような状況は把握している中で優先的に実施することはある。</p>
17-2	<p>■土手のところは水道を敷設できないか。他の家の敷地に水道管を通して水道を引いている。土手を掘って敷設できないか。</p>	<p>●一般論でいうと、土手は川が決壊しないために守っている。このため、土手の強度を保つため埋設できない。</p>
17-3	<p>■他の家の人に敷地に水道管を通すことを断られれば、一生水道は引けないということになる。金谷は特に土手のところに水道管が敷設できないためその普及率が低いと聞く。</p>	<p>●土手に関する様々な要望をいただくが、土手の幅や角度が定められている中、そういった決め事を崩せないのは事実である。</p>
18-1	<p>■グリーンベルトの件について この件は、警察から話があって、地元と警察の交通課長で実施できる方向で話が進んでいたが、4月に異動になって警察は県と協議した中でダメになって話が立ち消えになってしまった。</p>	<p>●通学路を歩道のある方に変えることはできないかということが提案されているということを警察から聞いている。</p>
18-2	<p>■何年か前にそういう話が持ち上がったが、交通量が多いことで、かえって危険だということで、その話は立ち消えになっている。</p>	<p>●通学路は市で決めるのではなく地元で決めてもらっている。地域での朝夕の見守りをしているか。</p>
18-3	<p>■PTAがやっている。交通指導員もやっている。</p>	<p>●交通指導員がやっているところもあれば、パトロール隊などの名称で地元の子供たちを守りたいという有志の方々がやってくれている地域もあ</p>

		<p>る。こうした中、どのように、より一層の子どもの安全を守っていったら良いかということについて一緒に考えていきたい。グリーンベルトの幅を広げるだけでは危険だということであれば、またご相談をいただいてということになるが、その場合は通学路を変える話にもなってくるので悩ましい問題である。</p>
19	<p>■医療費の削減に関する意識について</p> <p>歯の治療をしたが治療費に 11 万円かかった。しかし自己負担は 1 万円だった。非常に申し訳ない気がした。がん治療は高額である。私はがんを患っているが、医食同源で大体の病気は食事によって治る。がんも同じ。がん治療でどれほど医療費に負担がかかっているか。それをなくしていきたい。がんでも生きている人がいることを知ってもらいたいし研究してもらいたい。自分の命は自分で守るという意思があれば国保税も上がらない。それによってそのお金で、子どもやほかの青年たちも救える。自分ががんになってから、娘はなりたかった職業の試験をやめて、あらゆるがんに関する本を渡してくれた。膨大な量だったが自分で治せる方法を研究し考えた。皆さんも自分にできることを研究してほしい。生きている人の声を聞いて参考にして医療費の削減につなげてほしい。</p>	<p>●参考になりました。</p>
20-1	<p>■金谷庁舎について</p> <p>解体の時期は決まっているか。</p>	<p>●まだ決まっていない。今年度中には方針を出したいと思っている。</p>
20-2	<p>■支所を統合し金谷庁舎に機能を持たせることの話があったが、そういうことも含めてこれから検討するのか。全然決まっていないのか。</p>	<p>●支所は統合したいと考えている。公共施設は造った時から老朽化がはじまる。造った費用の何倍の維持管理経費がかかる。そうしたことを考えると、公共的な機能を有するという条件に、民間に建ててもらおうといった方法はあるのではないかと考える。例えば、市役所ならマンション、コンビニ、郵便局など複合施設にする方法によって経費を抑えていくことを考える必要がある。（これまでと同じではダメで知恵を使って将来の人に負担がないようにしていきたい。）ただし、病院のような命にかかわる</p>



		ものは直営でやっていく。そこはしっかり判断をしていく。
20-3	■今のままで放置しておくのか。管理はどうするのか。	●今の庁舎の解体が始まるまでは、駐車場として活用していただく。当面の間は今までどおり駐車場は利用いただける。
21-1	■牧之原公園の整備について 富士見茶屋はあのままだということだが、栄西禅師の後ろ側をトイレにしてほしかった。栄西禅師の後ろ側は死に地になっている。	●栄西禅師の後ろでは分かりにくい。
21-2	■表示をすればいい。	●安全なところにトイレを配置したいということに加え、多くに皆さんに利用していただきたいということから、専門家の検討の中で今の場所にトイレを決めた。
21-3	■どういう意見を聞いてあのような配置になったのか。	●全体が公園なので、必ずしも死に地があるということでもない。できてからご意見をまたいただきたい。
22	■浜岡原子力発電所災害時の避難先について 浜岡原子力発電所で事故が起こった場合、放射能汚染が懸念されるが、島田市民の避難先はどこか。小学生は地震災害の避難地は誰でも知っている。原子力災害時の避難地について小学生は知らない。小学生にもわかる避難地の情報提供についてお願いしたい。避難の際に市がどれだけ関与してくれるのか。そういった情報を広報紙等でお知らせしてもらいたい。	●浜岡原発の災害時の避難地は、単独事故の場合には伊豆半島にと県から指示されている。15の市町を指定されていて、避難できる場所、収容人数、経路等について危機管理監を派遣して確認している。また、大規模地震等の複合災害の場合には東京都（23区外）ということ県から指示を受けている。ただ、まだ避難できる場所、収容人数、経路等を確認できていない状況。これは都知事選等があり東京都の対応が整っていないため。 原発事故によって、島田市で最も危険なのは南からの風で、年間に吹く風の7～8%程度。西からの風の時はむしろ伊豆半島の方が危ない。したがって、その時の風向きや季節によって市が判断して市民にお知らせをしていく。原子力災害時にはまず、「屋内退避」という広報をする。避難の手段は車、バスということになるが、避難経路の途中で避難民にスクリーニングをして、その結果に応じて避難地に入れるかどうかの判断をされる。仮に被ばく量が少なければ避難所に入ることができる札を首からかけてもらえるが、多ければ除染しなければいけない。この除染した水の処理など県も大きな課題を持っている。また、非現実的と思うのは、原発から一番近いところから逃げることを県は指示している。原発から西にある市町は

西側へ、原発から東にある市町は東側へ避難するという形になるが、まず御前崎、牧之原、吉田の住民が逃げるまで島田の住民は逃げない。この人たちが北の島田を通過して逃げるのが考えられる中で、島田市民だけ逃げないということが可能なのかということを考えると、原発の再稼働は認められないという姿勢をとっている。理由は稼働していなくても使用済み核燃料があるなかで、万が一事故が起きた場合10万人の島田市民の命、財産を保証できる状況にないからである。

また、安定ヨウ素剤については、5km圏内は国の方針で配るということになっている。島田市は全人口分を備蓄している。事前配布については検討が必要。直径2～3mmの薬であり、管理を皆さんができるかという懸念と、薬にも期限があるし、医師の指示も必要ということを考えている。市では警戒情報が出た段階で配ることを考えておりその方法も検討している。もし、市民の皆さんが事前に配布して欲しいというお声が大半であれば、それもやぶさかではないが、その場合には全人口の2倍の量の薬を用意する。しかし、事故が起こった後に配布できる時間はあると考えている。その方が確実性が高いと考えている。

※ 回答は全て市長から回答した。

#### ④当日の様子



⑤時間内に質問できなかった質問及び回答

番号	質問内容	市からの回答（対応状況）
1	<p>■排水路について</p> <p>中町町内にあるNTT建物の前の排水路は、傾斜が緩いため排水の流れが悪く汚水がたまる状態である。流れを良くしてほしい。周りの状況から改修が無理なら、せめて4月の大掃除の時、掃除ができるように、グレーチングの数を増やしてもらいたい。</p>	<p>●市内の道路・水路の改良、修繕については、現場の状況を確認し優先度の高い場所から実施している。自治会を通じ要望書の提出をいただき、現地を確認したうえで対応させていただく。</p>
2	<p>■市民病院について</p> <p>前に、市民病院の移転の話が出ていたが、現在どうなっているのか。また、これから高齢者が多くなって入院、治療の需要が増えてきたときの対応に島田市としてどのように考えているか。</p>	<p>●市政報告の「市民病院の建設、医療制度改革等について」を参照。</p> <p>将来予測では、島田市の人口も今後減っていくことが予測されている（H28年10月末で99,975人⇒H42年推計で86,618人）。その中でも、75歳以上の後期高齢者の人口は2030年（H42年）までは増えると予測されている（H28年10月末で14,980人⇒H42年推計で18,596人）。このため、入院される患者も引き続き高齢者が中心になるということで、骨折や循環器疾患などが増えていくと考えている。新病院では、高齢者の救急患者にもしっかり対応できるように計画していく。</p> <p>また、療養病床（現35床）は新病院では整備しないが、療養が必要な慢性期の患者については、在宅医療の強化にむけ、24時間訪問看護を開設するなどの対策を進めている。本年度は市の組織に新たに包括ケア推進課を設け、地域包括ケアシステムが確立できるよう、市だけでなく関係する施設や医療機関との連携を強めての対応に取り組んでいく。</p> <p>すでに市民病院の患者の高齢化は始まっており、入院患者さんの大半は75歳以上という状態（H28年10月末で54%）。</p> <p>新病院では子供さん、高齢者、障害を持つ方などだれもがわかりやすい、利用しやすい病院になるよう、ユニバーサルデザイン</p>

		<p>(できるだけ多くの方が利用可能である表示・造形) の考え方を取り入れて整備していく。</p> <p>外来と検査部門は1階と2階に分かれるが、移動に支障がないようエスカレーターやエレベータを配置し、各受付は見渡しのきく広いローカの前に置くように設計していく。</p> <p>そのほか駐車場もこれまで以上に確保し(現913台から目標台数約960台)、車の乗り降りがしやすい乗降スペースも確保していく。12月の広報しまだでは、現在検討している基本設計の途中経過をお知らせする予定なので、ぜひご覧いただきたい。</p> <p>また地域医療の体制については、現在、島田市では、医師会の多くの先生方に在宅で受ける医療に取り組んでいただいている。</p> <p>今後、高齢化の進展により、自宅等で暮らしながら医療を受ける方の増加が予測される。このような状況に対応するためには、在宅医療に取り組む医師を支えるための力を高めるとともに、在宅医療と介護との連携を強化し、その提供体制を一体的なものにすることが必要となる。そのための市の取組として、今年度から島田市訪問看護ステーションを24時間対応可能な体制へ移行するとともに、医療・介護関係者から構成される会議を開催し、連携のために必要な市の施策の検討を具体的に行っている。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、必要な市の施策を着実に実施していきたい。</p>
<p>3</p>	<p>■大井川河川内に茂る樹木の伐採について</p> <p>国一バイパスから県道(381号線)の間、大井川河川内に大きくなっている樹木の伐採ができたらすっきりと見晴らしよくなると思う。また、大井川の氾濫に対して障害にならないか心配。</p>	<p>●大井川については国土交通省静岡河川事務所により管理されている。河川区域内にある樹木や流木については適切な河川管理の中で伐採、除去が行なわれていると思われる。</p> <p>大井川河川改修や良好な河川環境整備については日頃、国土交通省に対して要望しており、計画的に実施されているが、ご指摘の箇所も含め適切な維持管理について今後も継続的に要望してい</p>

		<p>く。</p> <p>地元の皆様からのご要望は大変効果的であるので、要望書などの資料の提出をお願いしたい。</p>
4	<p>■保育士の待遇改善について</p> <p>待機児童の話をよく聞くが、保育士不足を解消するために、保育士の待遇改善が必要だと思う。</p>	<p>●保育士不足については島田市のみならず全国的な問題となっており、市内各保育園においても保育士の確保に苦慮していると聞いている。</p> <p>島田市では民間保育園に対し、様々な補助事業を行っているが、保育士の処遇改善には、市だけで支援できることには限界があり、国の抜本的な改善が必要であると感じている。要望については今後、県を通じ働きかけていきたいと考えている。</p>
5	<p>■川ざらいについて</p> <p>4月のどぶ掃除、7月の川ざらいは、70歳過ぎの高齢者で、しかも腰痛もちの男にとって苦痛。何か解除していただく方法はないか？</p>	<p>●市内一斉美化活動（川ざらい）及び、各地域等の河川清掃につきましては、各自治会等が主体となり実施していただいているため、市から直接の指導等は行なっていないが、毎年、市内一斉美化活動（川ざらい）について開催しております島田市環境衛生自治推進協会全体会（年2回）次第には、「高齢者の参加にはご配慮いただけますようお願いいたします。」と明記させていただき、当該会議においても説明とお願いをしている。</p> <p>このことから、各自治会から推薦されている、環境衛生自治推進委員様へのご相談をしていただきたいと思います。</p> <p>また、今後市内一斉美化活動（川ざらい）のあり方についても再検討していかなければならないと考えている。</p>
6	<p>■地域避難地について</p> <p>大地震発生時の宮崎町の第一次避難地は、八雲神社境内の広場（約150坪程度）となっているが、この土地は低く、水捌けも悪く、昔から強い雨や長期の雨が降ると水浸しになってしまう。そのため、テント設営も困難な状態となる。</p> <p>災害時には、町民が集まる場所であり、自主防災会本部となる場</p>	<p>●金谷宮崎町の第一次避難地は、住民の総意で決められていると思うが、御指摘の点以外に、神社には、地震の揺れで倒壊の可能性が極めて高い石灯籠や石の鳥居などの工作物が多く配置されているので、避難地には適さないと考えられる。近くに避難地である金谷小学校があるので、運動場の一角を町内の一時避難地として利用できる。金谷宮崎町の対策本部を設置する場所としては、</p>

	<p>所である。他に変わる適当な場所が無いとため、困惑している。市で改修できないか。または、改修の助成金を考えていただけないか。</p>	<p>金谷小学校を利用することで検討し、学校側と協議してほしい。協議に際しては、危機管理課も要望に応じて協力したい。</p>
<p>7</p>	<p>■広域避難場所である金谷小学校グラウンドについて 雨天時には、グラウンド内は水がよく溜まるので、日頃からいつでも使いやすいように補修をお願いしたい。</p>	<p>●市内小学校のグラウンドは体育の授業や各種のスポーツの使用により、多少のデコボコが発生していることは認識している。グラウンドの使用後荒れた場合は、学校において整地を行うほか、スポーツ少年団等でも使用後には整地をしていただいている状況。降雨時の度に排水が悪く水が溜まる場所については、グラウンド土を購入して改善を図るなど必要な対応を検討していきたい。</p>
<p>8</p>	<p>■蓬莱橋周辺の整備について 毎回、通勤のときに思っていたが、蓬莱橋の横断歩道の周辺をもう少し手入れをした方がいいと思う。 横断用の旗の入れ物も、今では錆びて旗も無くなっていて、乱雑に置かれている。使用しないのであれば撤去したほうが良いと思う。 ここは、注目されている場所なのに、雑草の手入れも行き届いていないように見えてとても残念に思えてならない。島田市の素晴らしい観光地であるので、ぜひお考えいただきたい。</p>	<p>●該当地の横断用の箱の入れ物は宝来町及び交通安全協会第三分会で管理しており、地元で設置したことを確認している。今回の意見は関係者に伝えおく。 また、蓬莱橋周辺の雑草については、番小屋の橋番さんや、地域の方々に草刈をしていただいているが、道路際の雑草については安全上の理由から、なかなか出来ていないのが現状。 ご指摘のとおり、蓬莱橋は島田市を代表する観光スポットとして注目度も高い場所であるので、美しい景観を保つよう必要な対応をしていく。 また、これから進めていく蓬莱橋周辺の整備事業においても、蓬莱橋のイメージを大事にした景観づくりに取り組んでいく。</p>